



今中 喜明

能勢町の将来像について

「本年度策定の町総合計画の主旨」について

問 能勢町の将来の人口は何人ぐらいが適正と思うか。

答 本町の地理的条件や経済状況等から現状維持を目標することと考える。人口は、増えるに越したことはございませんが現状の一万二、三千人ぐらいは確保したい。

問 少子・高齢化が進んでいる現状の中で、町の財政運営の見通しについて

答 少子高齢化の進展、労働人口の減少は収収の減に直結するもので、地方交付税の不透明とも相まって、行財政運営はますます厳しさが増すものと懸念する。

問 本町の主たる産業は今後どうあるべきか。

答 従来から本町の有する自然環境を初めとするあらゆる財産の活用にあつて、都市近郊型の農業で推進していきたい。

問 本年度策定の地域福

祉計画に向けての社会福祉の充実について。そして『生きがい』についてどのように思うか。

答 社会の成熟化により、個々の生活が重視され、住民互いの連携や人間関係が薄れていく中、一概に行政が見出せるものがないが、行政も地域の一人として自助・共助・公助などにより、それぞれが互いに尊厳を持ち、認め合う社会の構築に一層努めていく。又、生きがいの基本は、人を愛すること、仕事を愛すること、郷土を愛することではないかと思う。

問 近隣市町より遅れているインフラ整備への取組について。

答 下水道のあり方については、マスタープランの見直しを踏まえ、公共下水道の整備に当っては第4期の計画策定に取り組むとともに、農業集落排水事業についても事業着手に向けた検討をしていく。府道の整備につい

ては、歩行者の安全対策は当然必要と考えている。また、東西を貫通する新設道路もこれからの町づくりにとって重要な事項であると考えており、構想を練り、その実現性に向けて追求していきたい。

問 広域行政のあり方と現状について。

答 大阪府策定の特別市並みの権限移譲に向け、二市一町（池田市・箕面市・豊能町・能勢町）で積極的な移譲に向け協議を進めてきた、この広域連携の中心的な取り組みは（仮称）共同処理センター（池田市役所内）を位置づけているが、兵庫県も含めた生活圏域や医療圏域をとにもする一市三町等の連携も効果的、効率的な行政運営の実践であり、今後とも継続していきたい。

市町村合併については、市内の状況からもうかがい知るように、さまざまなハードルが伴い、合意形成の構築は長い道のりと現在では予想している。

第五次能勢町総合計画について



谷 義樹

第四次能勢町総合計画の評価は？

答 里山文化を中心とした、循環型社会の構築では、先見性があったと考

えるが、それを推進する協働の町づくりは、定着とまで行かなかつた。

問 第五次の計画にあたり、21年度に実施したアンケート調査の傾向は？

答 若年層と中高年の考え方に乖離が見られ、下水道等社会資本の整備より、農政等の環境に着目される方が増えてきている。

問 アンケート調査では、町内の交通対策を求める声が多いように思うが？

答 福祉パスをテーマにするとは答えられないが、アンケート結果として、一つの議題に当然上がるべきものであるというふうには思っている。

一、第五次能勢町総合計画について 二、農業問題について

問 「手づくり」で作成するとなっているが、具体的にはどうするのか？

答 コンサルを使わず、自分たちの手で作り上げる。

問 手づくりの中身として、住民目線という事も大事でないか？

答 立派な総合計画でなくとも、住民の目線に立ち、素人が手づくりでまとめた簡単な計画であっても良いと考えている。

問 農業問題について

答 「農業農村活性化推進委員会」の現状は？

現状をどう思うか？

答 取り組みとしてそれでよいのかと問われると、確かに疑問は残る。一度勉強会で議論したい。

問 「獣害防止策」の、平成22年度の取組みは？

答 シ力網・金網・電柵等の、半額補助を検討している。

問 遊休農地解消対策指定区域で、事業未実施の地域があるのを把握しているか？

答 来年度も要望があれば、府に働きかけていく。